

### 第3回 苜田町財政健全化検討会議 議事録

日時：平成28年12月26日（月） 14：30～17：00

場所：三原文化会館 1階 大ホール

#### 【次第】

- 1 開会
- 2 議題1：行政サービスによる歳出削減の方向性、  
目的別歳出の現況、苜田町の単独事業
- 3 議題2：歳出削減（事業内容の見直し 事例：ごみ処理）
- 4 議題3：歳出削減（広域化による経費削減 事例：消防）
- 5 議題4：歳出削減（利用料金の適正化）
- 6 議題5：行政評価
- 7 事務連絡：今後の開催日程の確認
- 8 終了

#### 【委員】

座長	谷口 博文	九州大学 学術研究・産学官連携本部 教授
委員	南 博	北九州市立大学 地域戦略研究所 教授
委員	後藤 和孝	福岡県 企画・地域振興部 市町村支援課長
委員	酒井 了	福岡県 建築都市部 都市計画課長
委員	伊庭 良知	一般社団法人 国土政策研究会 理事
委員	橋詰 拓	株式会社福岡銀行 公務金融法人部 公務室 主任調査役

#### 1：省略

#### 2 議題1：行政サービスによる歳出削減の方向性、目的別歳出の現況、苜田町の単独事業

##### 委員

行政サービスによる歳出削減の方向性、目的別歳出の現況、苜田町の単独事業について、事務局より説明をお願いします。

##### 事務局（九経調）

（資料③④を使って説明。）

##### 事務局（苜田町）

（12月議会についての報告。資料④を基に「見直し事業」について。）

委員

御礼申し上げます。只今の説明について質問ご意見あればお願いしたい。

委員

先ほどの説明のあったものについては、12月議会が承認したということで、29年度の予算に反映できると考えてよろしいか。

事務局（荇田町）

条例事項となったものは4月1日施行としている。29年度から予算反映ができるものになっている。

委員

先ほどの国保の1億円の繰入などは28年度からできるのか。条例事項でないものは今年度から開始できるということか。

事務局（荇田町）

国保については28年度からすでに1億円の繰出はやめようということになっていたが、国保税の税率自体が上がっていなかったため、国保会計がその金額では運営できないということであった。30年度の広域化に向けて今まで手を付けていなかった税率についても見直しを行うとし、今議会で議決を頂き、新たな税率で29年度は徴収を行いたいと考えている。

委員

国保については近々制度が変わると思うが、その時の税率はどうなるのか。教えていただきたい。

事務局（荇田町）

30年度から県で広域化するという話を頂いている。長らく税率の見直しを行っていなかったため、今回は10%程度値上げしようと考え、見直しをさせていただいている。

委員

30年度以降は一般会計から特別会計（国保会計）にお金を出すということはなくなっていくということか。

事務局（荇田町）

国保財政自体を検討中の状況である。広域化した場合に関する県からの回答もまだないので、今後どうなるかはまだわからない。しかしながら、現在赤字を持っているのであれば、荇田町で処理せざるを得ない部分がある。今後、国保料を広域化した場合も、赤字の部分は荇田町が持つべきだと意識している。

委員

12月議会で議論されているとのことだが、本検討会議と議会の流れはどういう関係か。荇田町から議会や町民に対して、今回のような見直しを行うという表明はしているのか。この会議の位置づけをご説明いただきたい。

事務局（荇田町）

荇田町は長らく財政的に厳しい状況が続いている。昨年（2015年）12月に議会に見直しをしたいと提案をした。1年が経過し、事務事業の一部には着手できたものの、それはあくまで既存の事業を残した上で一部を変更したものである。抜本的な改革ができる状況ではない。したがって、今回の検討会議では、見直しの仕方などもご指摘いただきたい。また、できるだけ自分達でできるものやっいていこうという考えである。

委員

まず、3頁について、単独事業、補助事業に大別して手の付けやすい単独事業の方からということは理解できるが、もう一つの論点として、事業が公債発行対象経費か一般財源対象経費かというところがあると思う。地方債は計画的に活用するのであれば悪いという訳ではないので、公債発行対象経費か一般財源対象経費かという点も見えていくのが良いと思う。

次に、8頁について、『補助事業は国や県の事業に連動し、見直し困難のため、検討対象から外す』とあるが、与原地区の土地区画整理事業など見直しをなんとか行って取り組んでいこうとしているものもある。補助事業であっても、見直しは可能である。検討対象から外すのはどうかと思う。その意味で、「見直し事業」「候補事業」「検討事業」というネーミングも考え直してはいかがか。「見直し」と「検討」の違いもわかりにくいように思う。また、見直し事業の中で、『行橋市 and/or みやこ町よりもサービス水準が高い事業』、『広域行政を検討する余地がある事業』という記述があるが、行橋市やみやこ町は隣接しているため当然検討対象範囲になってくると思うが、ここでの広域行政とはどこを範囲として行うのか考える必要がある。広域でやっいていくというのを取り上げるのであれば、連携中枢都市圏を含めて、広く比較された方が良いと思う。

最後に12頁について、歳出削減を3つの方法に分けているが、広域化による経費削減と利用料金の適正化については、例えば稼働率の低い公共施設については他の市町村からの

利用を促すという方法もある。そういう意味で、広域化と利用料金というものをリンクさせて考えなければならないと思う。

委員

先ほどご指摘のありました、8頁の2行目の表現は削除した方がよろしいのではないかと。

事務局（九経調）

記述自体は削除する。事業のネーミングはまた検討したいと思う。ここで言いたいことは、この優先順位で検討を行おうということである。

委員

優先順位という形で分けてあるが、少なくとも検討対象から外すことはないという認識で統一しておいた方がよろしいのではないかとと思う。

委員

交付団体では国が算定の方法をトップランナー方式に変更している。トップランナー方式に挙げられている項目については、検討されてはどうかと思う。国が決めた基準を満たさないと地方交付税は交付しないということになっているので、取り組みとしては、日本の平均水準がトップランナー方式になってくると思う。ぜひ取り組んでいただきたいと考える。

もう一点は、特別会計について。7日の財政諮問会議で、国の行政方向としては、上水道は広域化を検討しないと交付税対象から外す、下水道では運営権を検討しなければ地方自治体を支援しないとはっきりと示している。テニス関係については有料化することだが、テニスの運営権の検討は和歌山市で始まっている。利用料をとっているような事業に関しては運営権まで含めて検討してみたいか。

最後に、目標について、7億が難しいから3億にするとか5億という数字があるとか、どこを目指して頑張るというものがないように思う。難しいから線引きをするというのはいかななものか。金額目標をたてるのか、できる分から順次取り組みできた分の金額でよいと判断するのかは確認しておいていただきたい。

委員

今の件については、少しお答えを頂きながらいきたい。これからの議論の選択肢として広く見ておく必要があると思う。いかがか。

事務局（九経調）

7億というのは、行政サービスの見直し、公共施設の見直し、税の見直しの3つを合わ

せたあくまで仮置き目標である。設定した金額をこの3つの要素でどのように構成するかという話である。イメージとして、4年で基金がなくなるとすると7億が必要である。その7億というのは3つの要素から構成される。3つを合わせてそれだけ確保するという事で考えている。目標設定値については別途検討が必要だが、なんらかのイメージが必要だと思い、このように提示した。

事務局（荊田町）

町も目標がないと行政改革できないという部分ある。荊田町の経常収支比率が95%という非常に高い状態である。これをどれくらいまで下げるべきか内部で議論を行った。県内の町村平均が約90%程度であるので、荊田町は約5%高い状況であるが、7億下げることができれば、おおよそ県内の町村平均になる。7億程度を目標としている。

委員

今の件について質問あればお願いしたい。

委員

7億の数字はどこからきたものか。近年の決算でいくと7億取り崩しているのか。

事務局（荊田町）

ここ3年間は3億、6億、3億である。

委員

その結果が28億で、その結果を維持するとなれば、直近の予算編成でその額になれば28億が維持されるのか。28を4で割る意味がよくわからない。

事務局（九経調）

第1、2回目で、財政シミュレーションを行った際、現状の事業を維持していくと4年間で財調基金（28億円）がなくなるという結果になった。

委員

シミュレーションの仕方によっては7億という数字が変化する。一時的に生じている近年の状況が問題なのか、将来確実に取り崩しが進行していくということが問題なのかということは、町民にとっては重大な問題だと思う。財政シミュレーションが重要だと考える。29年度予算がどういう状態になるのか。それをうけてシミュレーションすべき。7億の削減は困難な水準ではないか。どこに原因があるかを見つけ出してそこにターゲットを絞るべきだと思う。当面何をやれるかに絞っていくのが一つの手だと思う。

## 委員

最初に前提として共有しておきたいが、この議論のスタートした際のシミュレーションがある。しかし、このシミュレーションは来年度予算で前提の数字が変わってくる可能性がある。この検討会議は今年度を一つの区切りとして中間報告を行うということになっている。出口の段階で目標設定をどうするのかとか、検討してどういうことをやるのか、ということは、中間報告で出すとすれば、前提の数字は来年度予算が分かっている状態で出すことになると思う。その意味で、これまでの議論で前提とされた数字もまた見直してシミュレーションを行うことになると思う。その点はよろしいか。

## 事務局（九経調）

あくまで今の状態のものより厳しめで見ている。扶助費の増加については意見があると思うが、現状が続いた場合のシミュレーションで出している。また、第1・2検討会議の議論の中でも厳しめの数字を出していこうということになった。確かに厳しすぎることもあるが、そのようにしている。したがって、先ほどあったように次年度の予算が決まってきたらそれを反映した上でもう一度見直しを行うことになると思う。そのときに、やり方が良いか否かは別として、基金が減らないための設定をしていく。その金額を3つの要素で構成していく。ご意見のあった通り、現在の苅田町の予算を圧迫している原因には、扶助費の増加と公債費の償還がある。そのようなものを見ながら、現在は3つ挙げているが、いくつかの要素で検討していく。次年度の予算が出ないと見極めができないので、出してから改めて数字の設定はどれが適切か検討したいと考えている。

## 委員

シミュレーションの前提は予算が出た時点で見直すということで確認した。次に目標の設定をどういう形にするかということは今結論が出ている訳ではなく、この検討会議で議論をするということである。どういう目標設定が適切かそのこと自体が議論のテーマになると私は考えているがそれでよろしいか。

いくつかある財政健全化のための手法のうち、どれが適切かを検討しないと町としての目標が定まってこないと思う。目標のどれが良いかというのは今の段階で結論の出ているものではない。現在は仮置きで難しさの度合いを測る議論をしているという状況である。最終的な目標設定のあり方や数字をどうするかは現在ではすべて仮置きの議論だと認識しているが、それでよろしいか。

それでは議論の前提はそういうことだということでご理解をお願いしたい。引き続きご意見あればお願いしたい。

委員

住民負担の見直しを議論するに際しては、歳出減だけではなく歳入増の話にも繋がると思うが、歳入増の議論はどうなっているのか？

事務局（荇田町）

今回の受益者負担の適正化により、歳入増が約1億3千万程度と見込んでいる。合わせて、これまで給付をしていたものについて所得制限を設けるなど給付の見直しにより、歳出を3千万円ほど減少している。住民負担の見直しにより、トータルで1億6千万円ほどの効果があると試算している。

委員

行政サービスの見直しは、受益者とはいえ町民の負担になり厳しい意見も出ると思う。よって町役場職員の人件費といった（経費の）削減取組について、取組未済であれば関係者に対して丁寧な説明、合意を得ながら取組む必要、取組中であれば取組状況の町民への丁寧な説明が必要だと思う。また広域化検討については、近隣都市だけでなく、距離の離れた自治体も対象に含め検討し、全ての事業見直しの中で、実施できるものを見出す必要がある。

事務局（荇田町）

人件費、内部にかかる経費について、行革を始め、職員の数減らしていくことは検討している。ただ年金が65歳まで出ないということで、国の方からも再任用制度を有効活用するよう言われている。そこで退職職員を再任用している状況もあり、なかなか人件費総額としては減少しにくい現状がある。ただ、今回住民に負担をお願いしないといけないということも鑑み、三役と管理職の給与について減額をするということで議会からも可決をもらっている。一方で、職員給についてはモチベーションに関わるので慎重にすべき、行革とは別に議論すべきなど反対意見もあるのでよく検討した上で住民にも説明していきたい。PFIやPPPなど公共施設の取組については、今回有識者のご意見を頂き、取り組めるものはやっていきたいと考えている。

### 3 議題2：歳出削減（事業内容の見直し 事例：ごみ処理）

委員

歳出削減（事業内容の見直し 事例：ごみ処理）について、事務局より説明をお願いしたい。

事務局（九経調）

（資料③13~23頁以降を使って説明。）

委員

御礼申し上げます。只今の説明に関してなにかあればお願いしたい。

委員

22 頁に 9300 万円という数字があるが、これはゴミ袋の料金が 50 円ということか。販売コストなどは入っていないものか。入っていないと数字が独り歩きするように感じる。

事務局（九経調）

販売コストは入っていない。現状、苅田町ではゴミ袋が無料で配布されている。したがって、それほどプラスで莫大な経費がかかることはないと思う。

事務局（苅田町）

町で行橋市と同様にした場合にどのくらいになるかシミュレーションを行った。その場合、売上 8000 万、純利益が 3000 万、経費 5000 万となった。経費としては、5000 万ほどかかると考えている。

委員

それはごみの減量分はカウントされているか。

事務局（苅田町）

していない。単純に経費を出したもの。

委員

15 頁～17 頁の表やグラフに、宇美町と粕屋町が全く同じ数字になっているが、これは正しい数値か。ごみ処理の一部事務組合も異なるし、同じ数値というのはいりえない。また、行橋市の焼却処理に数字が入っているが、行橋市は北九州市に可燃ごみを委託しているはずである。これで良いのか確認していただきたい。

事務局（九経調）

恐らく回収などでかかってくる経費だと思われる。

委員

単位はトンになっている。中継施設はあるが、焼却そのものはしていないと思う。

委員

ここは数字の確認をお願いしたい。

委員

18、19 頁の数字を照らし合わせてみると、一般財源の負担をどれだけ少なくするかという点が重要だと考える。その点で、国からの支出金をどれだけ持ってきているかに着目すると、宇美町、行橋市に少額だが国庫支出金が入っている。19 頁では、行橋市は建設・改良費が 0 になっている。建設・改良をしないのに、何故国からの支出金があるのかが疑問である。あるいは、豊前市や粕屋町は建設・改良費は計上されているが、一方で 18 頁の国庫支出金が 0 である。このあたりがよくわからないので教えていただきたい。また、20 頁については、苅田町の場合は第 3 セクターで運営しているという話があったが、そうすると他の自治体と比較する場合に連結ベースで見ないと意味がないのではと思う。

委員

数字については確認していただきたい。今わかるのであれば教えていただきたい。

事務局（九経調）

数字は確認してまた後日お伝えしたい。

#### 4 議題 3：歳出削減（広域化による経費削減 事例：消防）

委員

歳出削減（広域化による経費削減 事例：消防）について、事務局より説明をお願いしたい。

事務局（九経調）

（資料③24～33 頁を使って説明。）

委員

委員から資料を頂いている。ご説明いただきたい。

委員

（参考資料について説明）

委員

御礼申し上げます。只今の説明で何かご意見ご質問あればお願いしたい。

委員

消防を広域化することについて、現実問題としての可能性はどれくらいあるか。

事務局（荇田町）

消防について、現在、行橋市の消防と人事交流を行っている。しかし、広域化という議論になった時に、指令台といつ更新したかが非常に重要となっており、数億円かかる。荇田町と行橋市の更新時期がずれている。荇田町は割と最近更新を行っているので、そこにかけたコストを早い時期に償却するのであれば、住民の方にご理解を頂いた上で行う必要があると考える。動きとしては、人事的な交流から将来的に広域化に繋がればと考えている。

委員

消防に関しては、30万人単位で広域化するようにと総務省から出ている。各市町村単独で考えるのは難しいので県が先導的にやっていく必要があるのではと感じている。そのようなことから、広域化を検討されている自治体は多いのではないかと思う。民間企業の持っている消防隊が、実際火災が発生した際に邪魔にされる場合がある。自動車もなかなか有効活用してもらえない状況。民間企業の持っている装備と統合化する必要があると感じている。また、民間側は技術の向上が遅れている部分がある。一度企業の消防隊との話し合いが必要ではないかと考える。現実には、科学消防車を多く持っているわけではないのかなと感じている。町内にある車両の台数には民間のものも入れてみてはどうか。

委員

今の点について、事務局から回答あればお願いしたい。大企業との連携というのは、確かに荇田町にとっては大きな点だと思う。

事務局（荇田町担当者）

民間の消防については、町内に消防車を所有している企業は2箇所あり、それぞれ1台ずつ消防車を所有している。企業の消防力向上については、勉強の機会を設定しているものの、なかなか企業の方に参加していただけないという実状がある。現状としては荇田町で民間の方にご協力いただくのは難しいのではと感じている。あとは、広域協定に基づくものはある。

## 5 議題4：歳出削減（利用料金の適正化）

委員

歳出削減（利用料金の適正化）について、事務局よりご説明いただきたい。

事務局（九経調）

（資料③34～39 頁以降を使って説明。）

委員

今の説明について、何かあればお願いしたい。

委員

見直し中の放課後の子供たちの安全で健やかな居場所づくりというのは、学童保育のようなものか。

事務局（荇田町）

学童保育とは別に、こども広場という、国の補助金が出ていないものであるが、荇田町の先進的な取り組みとして行っている。子供たちを放課後ボランティアの方などで見てもらうという形で始めたが、制度設計をしていく中でやはり賃金を払わなければならないだろうとなった。これは、基本荇田町の単独事業として行っている。学童保育とは国が進めている施策であるため、国の補助金が2分の1出るが、それとは別の取組となっている。

委員

学童保育には行かずにここに来る子供たちというのはちがいがあのか。

事務局（荇田町）

学童保育については、自己負担が月6,000円ほどかかり、人数などにも法律による規定がある。こども広場については町の単独事業のため基準はない。体育館などに子どもを集めて特に資格などのない方に賃金を払って見守っていただいている。

委員

学校保育費が払えない子供達のためのセーフティーネットになっているということか。

事務局（荇田町）

現実、そのような形になっている。学童保育は、施設の大きさや内容などが決められている。荇田町にはそれだけの施設がないので、放課後子ども広場という形で行っている。

委員

鹿児島県では、学童保育の民間への移管を検討している。費用を出して塾などに通わせる人も増えているため、学童保育に空きがでていくということもある。費用を払えない子供を町に放つのではなくどこかで受け止める必要がある。子供達の福祉、安全という面で

はやはり行政が負担をしていくべきものではないかと思う。最低限は行っていく必要があるのですが、もう一度総合的に見直すのが良いのではないかと。検討していただきたい。

また、PFI や PPP については大阪市のガイドラインを参考にしているが、実は大阪府はほとんど PFI を行ってない。ガイドラインが適切ではないのではないかと。参考にするのは、PFI を多く行っている自治体にしていただきたい。福岡市などでもやっているの、近隣でも検討されてはどうか。

#### 委員

35 頁の表については、公費で負担すべきものを除き、受益者負担で賄われているのかを見るために、運営費に対して、公費、受益者負担がどれだけかの一覧を示していただきたい。また、36 頁で PFI の紹介をしているが、民間企業のノウハウを活用するという意味では PFI 以外にもやり方が様々ある。多様な見方をした方が良いのではないかと。また、民活の進捗の度合いを見せていただきたい。

#### 委員

今のお二人の意見に同感する。PFI というより PPP の部分で、住民と協働する形で小さい規模で小さい額で委託するのが良いと思う。例えば、宗像市など参考事例があるので検討すると、教育や福祉の分野で参考になるのではと考える。経費削減だけでなく、サービス向上でも成果を上げていると思う。

また、PFI については、36. 39 頁を見ると、独立採算型の PFI の事業を検討されている印象を持つ。苅田町に独立採算型になじむような公共施設を新設するという前提がそもそもどうかと思う。サービス購入型の PFI で必要な施設を作っていくことはあると思うが、独立採算型でできるものはイメージが湧かない。少しわかりにくい印象がある。

#### 委員

市川市のものは独立採算型ではないと思う。表記が少し違う。内閣府の統計がかなり古い、最近の PFI は全く違う形のものでたくさんでている。そういう意味では、36 頁の『PFI をはじめとした…』という部分はいらないのではないかと。PFI はあまり気にしなくてよいと思う。

#### 委員

民間の知恵をどう生かすかという切り口で具体的な知恵を事例として挙げた方が参考になると考える。いわゆる PFI 法に基づく PFI だけを頭に置いているとイメージが付きにくい部分があるかもしれない。いずれにしても、料金など民間の委託しながら公費をどう抑えるか、あるいはサービスをどう向上するかという双方から具体的な知恵を出していただくとイメージが付きやすいと思う。

#### 委員

温水プール単体を見直すのではなくて、町全体のプールがどれだけあって、どのように利用されているかということを見るべきではないか。また、プール自体は様々な用途で利用されるものであるので、総合的に見直していただきたい。

また、高齢者のための生活習慣病予防・改善については、宮崎県の国富町で先進的な取り組みがある。民間の費用でほとんどできている。指導者を養成して町全体で取り組みを広げていくことも良いと思う。道筋を示す必要があるが、行政がしなくても民間ができるものがある。先進的なものを勉強されてはどうか。細かく検討しているものの先進事例を探していく作業が必要だと考える。

#### 委員

詳しい委員の方にお聞きになって、多くの先進事例を参考にさせていただきたい。

#### 事務局（荇田町）

温水プールの活用について、先ほど水泳教室という話があったが、町営で行うと逆に財政の圧迫してしまうのではと思う。その点何かご意見あればお願いいたします。

#### 委員

町が教室を開催する必要はなく、プールを利用してもらい民間が教室を行うという形である。民間側は自らプールを用意する必要がなくなる。ただし、利用料を取ることで町の収入になる。そのあたり総合的に町全体のプールの運営を考えられると良いと思う。

#### 委員

先ほど委員のおっしゃられた受益者負担でどのぐらい賄われているのかというような資料の示し方は、独立採算型で行っているものは示しやすいかもしれないが、全体の財源負担の中で示すことは困難かもしれない。個別の事業の中でそういう観点の議論をしてもらうという形でのデータになるのではないかと思う。

#### 委員

最近では、都市公園や道路などでも、民間に公益事業をしてもらうのとセットで収益事業を認めるというものもある。公物管理では、そういう収益と受益者負担のバランスを上手く考えるとよいと思う。

#### 委員

ここまでの歳出削減についての議論になるが、ここまでに質問があればまとめて

お伺いしたいがよろしいか。特に、歳出の見直しについてはいろんな切り口があったが、いろんな見方、地方債をどう考えるか、経常経費、投資的経費などそういう切り口からの見直しなどいくつかの議論があった。そういうものも含めて最初の方の議論も整理していただきたい。

## 6 議題5：行政評価

委員

行政評価について、事務局より説明をお願いしたい。

事務局（九経調）

（資料③40頁以降を使って説明。）

委員

行政評価について何かご意見ご質問あればお願いしたい。

委員

行政評価については、やり方はいろいろあると思うが、荻田町の予算編成作業の実態はどのようなものか。

事務局（荻田町）

現在、来年度に向けてヒアリングを行っている。不交付団体ということもあり、今まで住民や職員に事業をやめる、縮小するという考えがなかったため、予算を削る、切るというのが非常に難しい状況にある。行政評価ができていなかったというのが現実である。

現在は、大きなものを削る、目標として財政調整基金を取り崩さず、投資予算に財政調整基金を繰り入れて行っている。予算編成時期に財政調整基金を削らずに予算を組むという意気込みで、予算の削減を行っている。とにかく、歳出削減。歳入については、項目等の見直しを事務レベルで取り組める部分で予算編成を行っている。

委員

委員会でもこの部分を強調した提言が必要かと思っている。交付団体と財政健全団体かどうかはまったく異なると考える。その点、町民の皆さまにもよく理解していただき、スクラップアンドビルドでやっていくことが重要だと考える。

委員

各課の重要取り組み案件については、数値目標を作るべきだと考える。設定から丁寧に外部委員を入れてやっていく。データ、統計をとったものや、地域に対して数値を出して

いるものなど、それぞれの課の重点目標をきめて行い、質を確保するべきである。同時に、各課が費用を削減する努力を行うべきである。取り組むことで職員の意識改革にもなるのでぜひ取り組んでいただきたい。また、前例自治体（竜王町）に学んだことを自分達の自治体に落とし込む作業を検討していただきたい。

事務局（荇田町）

荇田町も取り組みとしては、住民の生活に直接影響のないものから削るという方針である。具体的には、祭りなどのイベントを3年間中止するという形をとっている。また、先進事例を踏まえて、町でできる新たな取り組みを導入し、PDCAサイクルを回していきたいと思っている。

委員

財政の運営という意味では、義務的経費と裁量的経費を分けて考えていくべきではないか。また、単年度の予算編成が基本といえども、ある程度中長期的に取り組む必要がある。国の交付金は積極的に活用すべきであるし、その国の交付金制度は、3～5年の期間の中で課題に対し、どういう事業に取り組んで、そしてどのように目標数値に近づけていくかといったPDCAのサイクルに則ったものになっている。こうした複数年計画の中で財政をどうするか考えることが重要だと考える。

委員

ふるさと納税についてはどうなっているか。

事務局（荇田町）

ふるさと納税については、今年度から、返礼品を用意しようと、7月から取り組みを開始した。本年度は現時点で60万円弱という状況である。昨年度は一年間で70万円である。

委員

控除があるので、今のままでは赤字になるのでは。

事務局（荇田町）

町内の方がふるさと納税を実施することで税が外部に流れているようなので、せめて町の方にお金が残るような形でやっていきたい。

7 事務連絡：今後の開催日程の確認

8 終了